


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県・福島市】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	福島県福島市立蓬萊中学校 全学年 330名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	保健体育科で授業に取り入れている「ブラインド・サッカー」に関連して、平成29年度オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係るパラリンピックブラインド・サッカー日本代表候補、加藤健人氏から講演をいただくことによって、パラリンピックやブラインド・サッカーに対する理解を深めるとともに、障がい者スポーツに対する見識を広げる契機とする。
5 取組内容	<p>○11月22日（水）加藤健人さんによる講演会（総合的な学習の時間：1年～3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤健人さんから、「はじめなければはじまらない」という演題で、ブラインド・サッカーに関する講演と実技を体験させていただき、競技やパラリンピックへの興味や関心を高めるとともに、障がい者スポーツへの理解を深める契機となった。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>○ブラインド・サッカー（保健体育科：1年～3年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会終了後、全校生徒対象に、「球技選択（8時間）」の单元内において、3時間程度実際にブラインド・サッカーの実技をとおして、競技の難しさやおもしろさを実感させた。</li> </ul> </div> </div>

<p>6 主な成果</p>	<p>パラリンピック「ブラインド・サッカー」日本代表、加藤健人氏から、「ブラインド・サッカー」の実演と、自己の障がいや生き方に対する氏の考え方について講演をいただいたことにより、「健常者とは？普通とは？」という生徒への投げかけや、「障がい者も健常者と同様に好きなことにはがんばっていること」、「今はじめなければ何もはじまらないこと」、「どんなことでも相手の立場に立って考えること」などのお言葉から、障がい者に対する生徒自身のこれまでの考えや、これからのあるべき姿、態度について考え直すことができた。</p> <p>※生徒感想から</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今回、たくさんよい話を聞かせていただいた中で、いくつも心に残る言葉がありました。その中でも、「じゃあ、みんなが思う“普通”って何？」という一言にははっとしました。目が不自由でも前向きに、それを1つの個性として受け入れている点や、仲間とともにブラインド・サッカーを楽しんでいる点など、とても勇気をもらいました。「マイナス」を「プラス」に変えて世界で活躍している姿はすばらしいと感じました。</p> </div>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>今回は、本校保健体育科担当教諭が、以前より「ブラインド・サッカー」を授業に取り入れていたこと、また、講師の加藤健人氏のご両親と面識があったことなどが幸いして実現することができた。</p> <p>今年度の教育課程が開始されてからの新規事業ではあったが、授業で実施した内容から発展させた、生徒・教師にとって無理や負担のない、学ぶことが多々あった事業となったと思う。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>オリンピック・パラリンピックという分野における本事業については、地理的・環境的な要因に左右される要素があると思われる。</p> <p>まず、身近なところに代表チームや代表選手がいる地域とそうでない地域とでは、計画・立案、招聘時の予算等の段階で、それぞれの課題が発生するおそれが考えられる。</p> <p>よって、事前の情報収集が大切となってくるものと思う。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>今回の成果を踏まえ、平成30年度以降についても本事業の活用を継続させていただきたいと考える。</p> <p>しかしながら、より見識を深めるために新たな競技団体・個人に着目したとしても、前述したように、地理的・環境的な要因が克服できるかが、よりよい成果を生むポイントであると考え、来年度へ向けた、地域性を考慮した情報提供をお願いしたい。</p>